

# APT-WTDC-21第1回準備会合の結果

前 総務省 国際政策課 技術協力専門官

よこやま たかひろ **横山 隆裕** 



### 1. 概要

2020年7月24日(金)、APT-WTDC-21第1回準備会合がWeb会議(日本時間の13時~16時45分)で開催された。2021年11月8日~19日にエチオピアでITU-Dの総会である世界電気通信開発会議(WTDC-21)が開催される。APT-WTDC-21準備会合は、このWTDC-21に向け、アジア・太平洋電気通信共同体(APT)加盟国の共同提案を作成するなど、APT域内の意見の調整・集約を図るために開催される準備会合であり、4回の開催を予定している。

我が国からは、横山隆裕総務省前技術協力専門官、山口典史同技術協力専門官、後藤晃同前ITU係長、大槻同主査、川角同参与、松本同参与らが参加した。参加者総数は約100名で、アリワンAPT事務局長、近藤同次長、ボグダンITU電気通信開発(BDT)局長も参加した。

今回の会合はキックオフ・ミーティングであり、検討体制、 作業方法、会合計画を議論し、承認した。APT共同提案 等の実質的な議論は次回会合以降に行われる。

## 2. 主な結果

#### (1) 検討体制

各国からの推薦に基づきAPT事務局が事前に調整して 作成した体制案に、直前または会合中に中国、イラン及び インドが推薦したWG副議長を加え、表1のとおり承認され た。我が国より、プレナリー副議長に山口専門官、WG3 議長に大槻主査が就任した。

WGの所掌事項に関して、事務局の案では地域イニシア ティブがWG2の担当となっていた。インドより、WG3との 親和性が高いとの指摘があり、地域イニシアティブをWG3 に移管することになった。

#### (2) 作業方法

事務局より作業方法の案が示された。従前の作業方法からの改定事項は主に次のとおりである。コロナ禍のもと、物理的な会合を開催することが難しくなり、オンラインでの会合開催が常態化したことを受け、オンライン会合の規定を整備したこと。管理委員会で定めた横断的な項目を反映させたこと。全権委員会議(PP)や世界無線通信会議(WRC)に向けてのAPT準備会合の作業方法との平仄を合わせたこと。

シャラファト議長より、必要に応じ臨時会合を開催する ことができるようにすべしとの提案があった。また、オース トラリアより、寄与文書の提出期限を前倒しすべしとの提 案があった。これらの提案は作業方法に反映された。

#### (3) 会合計画

事務局より、今回会合を含め会合を4回開催する計画が提案された。これに関連してシャラファト議長より、WTDC-21の準備に関する臨時TDAG会合が2020年11月23日に開催予定であることが紹介され、この会合にAPTの意見を入れることのできるよう、その前のタイミングに追加のAPT-WTDC準備会合を開催することが提案された。10月または11月に追加して、臨時の準備会合を開催することが合意された。

APTにおけるWTDC-21に向けての準備活動は、ITU-Dでの準備活動と密接に関係する。そこで、読者の理解のため、ITU-Dの検討状況や今後のスケジュール等を説明し

■表1. APT-WTDC-21検討体制

組織	議長	副議長
プレナリー (準備会合全体の統括及び意思決定)	Dr. Ahmad Sharafat (イラン)	山口典史氏(総務省) Mr. Sung Joon Choi(韓国)
WG1(SGの研究課題等)	Ms. Mina Seonmin Jun(韓国)	Ms. Yapeng Wang(中国) Ms. Maryam Espandar(イラン)
WG2(作業方法、宣言、行動計画等)	Ms. Alexandra Borthwick(オーストラリア)	Ms. Thasawan Samorwong (タイ)
WG3(地域イニシアティブ等、その他ICT開発全般)	大槻芽美子氏(総務省)	Ms. Anna Baweh(マレーシア) インドの被推薦者(次回、氏名を通知)

たい。

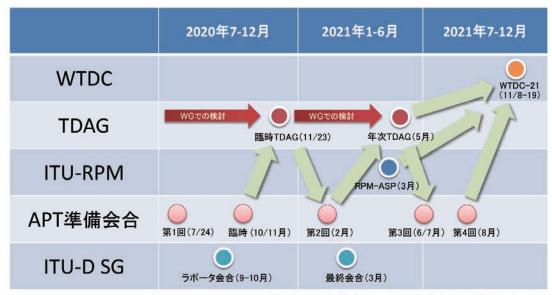
まず、経緯についてである。2019年のITU-D電気通信 開発諮問委員会(TDAG)会合から、ボグダンBDT局長の主導のもと、WTDC-21の準備プロセス、WTDC-21の内容及び構成、ステークホルダの参加、サイドイベントの4つの論点について議論が重ねられてきた。その結果を踏まえ、ボグダン局長は、2020年6月に開催されたTDAG会合に、6つの地域代表を集めた事前調整会合(IRM)の開催、新たなステークホルダ(世銀等のドナー機関を想定)への参加呼び掛け、開発課題への対応策等をハイレベルで議論するセッション"Development Track"の開催などを内容とするWTDC改革案を提案した。局長提案は多くの国から途上国、先進国の別を問わず支持されたが、アラブ地域の国々及びロシアが拙速だとして反対したため、ワーキング・グループを3つ設け具体案を検討・作成することになった(表2)。

既に、これら3つのTDAG-WGはそれぞれ7月中旬に第1回 会合を開催し検討を開始している。その結果を審議・承認 するために、2020年11月23日に臨時TDAG会合を開くこと としており、それまでに何回かWG会合を開催し、議論を深めていく予定である。臨時TDAG会合以降も検討を継続することになった事項については、2021年5月の定例TDAG会合で承認することとなる。図1のAPT-WTDC-21準備会合の会合計画にTDAGプロセスとの関係を図示した。TDAGプロセスとAPTでの準備会合とが今まで以上に絡み合って作業が進んでいくものと見込まれる。また、図1では割愛したが、これらに加え、ITU-Dでは、6つの地域機関の代表らによる事前調整プロセスを設ける方向で議論されている。

ボグダン局長より、APTを含む各地域機関に対し、フォーカルポイントを指名するよう要請があった。これは、TDAGプロセスや各地域機関の準備プロセスの連携を深めることを目的としたもので、TDAG-WGの審議事項について、まずは、地域内の準備活動を調整する役割が期待されている。シャラファト議長より、APT準備会合のWG議長をフォーカルポイントに指名してはどうかとの提案があり、そう決定された。TDAGでの議論によると、このフォーカルポイントは、地域間調整プロセスが動き出したのちは、出身地域を代表

■表2. 3つのTDAG-WGの所掌事項

TDAG-WG-Prep	WTDC-21の準備プロセスについて検討し、その事前準備及び本番のアレンジメントに関する提案を作成する。	
TDAG-WG-RDTP	WTDC決議を簡素化する。ITU-Dのテーマ別優先事項と地域イニシアティブとを整合させる。宣言案の文案を作成する。	
TDAG-WG-SOP	戦略計画案のうちITU-Dに係る文案を作成する。ブエノスアイレス行動計画をレビューする。理事会に向けて運用計画案を作成する。	



注) ITU-RPMは、ITU-Dが決議31に基づき各地域ごとに開催する準備会合である。

■図1. APT-WTDC-21準備会合の会合計画

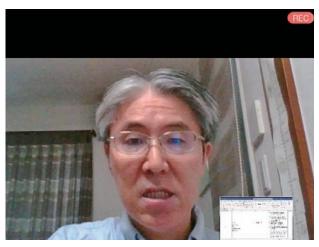


して、地域間調整会合に参加し、他地域と調整する役割 も担っていくものと思われる。

## 3. おわりに

ボグダンBDT局長は、WTDC-21の準備過程において6つの地域の代表が集まり、地域間の意見調整を行うことを提唱している。今回会合でAPT-WTDC-21準備会合の体制

が決定し、役職者に日本人が就任した。APT-WTDC-21 準備会合は、APT域内準備プロセス、TDAGプロセス、 地域間調整プロセスといった並走する複数の準備プロセス を結節する役割を果たしていくこととなろう。今後、APT 域内での議論を主導するととともに、APT代表の立場で他 地域との調整やTDAGでの議論に参画し、WTDC-21の成 功に積極的に貢献されんことを期待したい。



■図2. 会合で発言する筆者



■図3. プレナリー副議長への就任の挨拶をする山口技術協力専門官

# ITUが注目しているホットトピックス

ITUのホームページでは、その時々のホットトピックスを "NEWS AND VIEWS" として掲載しています。まさに開催中の会合における合意事項、ITUが公開しているICT関連ツールキットの紹介等、旬なテーマを知ることができます。ぜひご覧ください。

https://www.itu.int/en/Pages/default.aspx